

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(桑名西高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		校訓「自主・創造」のもと、地域・関係機関等との協働・交流や探究活動を通して自己肯定感を高め、たくましく生きる力と他者への思いやりを持った自律した学習者たる生徒が育つ学校を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○総合的な探究の時間等での活動・実践を通して、自己肯定感や責任感を高めるとともに、将来、地元・地域に貢献できる生徒を育成します。 ○それぞれの興味関心や適性、および進学すること・働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる生徒を育成します。 ○学習活動や特別活動、部活動に自主的・協同的に取り組み、社会で必要とされる力とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒を育成します。 ○たくましく生き、自律した人間力につながる基本的な生活習慣が定着し、人との交流を通して、他者への思いやりや配慮ができる生徒を育成します。
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、協力して取り組んでいること。 ○すべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めていること。 ○教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場環境であること。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> ・基礎基本から様々な進路希望に対応した内容まで、興味関心を喚起する授業。 ・大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かいサポート・支援。 ・安心して豊かな学校生活を送るための教育環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。 <保護者> ・基礎学力の定着及び学力伸長と進路希望実現に向けた学習サポート・進路サポート・生徒サポートの充実。 ・多様化した入試制度への適切な対応。 ・学校行事や部活動等とおした豊かな人間性の育成。安全・安心な教育環境。 <地域> ・学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。 ・授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 学力伸長および進路希望実現や、豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。 <中学校> 本校の特色や生徒の学校生活の様子、進路状況などの情報提供。 <地域> 学校行事等の公開。地域活性化のために地域行事や防災活動等への生徒の参画。	<家庭> 学校教育への理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた支援。 <中学校> 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。情報交換と協力・支援。 <地域> 学校の教育活動や生徒が生き方や働き方を考えるための協力・支援。

(3)前年度の学校関係者評価など		○授業改善、普通科改革のための国のDX促進予算を応募してICT教育に取り組んだらどうか。 ○コロナ後、特にコミュニケーション能力や主体性に乏しい生徒が増えたように思うので、仲間と一緒に何かを実践するという活動などを積極的に考えたらどうか。 ○中学校でも不登校生徒は増加している。今後対策が必要ではないか。 ○挨拶が自分からできるという生徒の割合が学年が下がるにつれて低くなっているのが気になる。
(4)現状と課題	教育活動	○自ら挑戦する心を持ち、自主的に自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成が求められていることなどから、前年度キャリア教育の課題を整理し、新たに今年度の1学年から順次総合的な探求の時間の取組を改変する。 ○4年制大学等への進学志向が高まっていることと同時に、部活動に努力したい生徒も多く、その両立が課題である。 ○大学入試改革が進む中で、多様な入試機会を積極的に活用し自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒も増えている。その対応にはよりきめ細かなサポートが必要であり、時間確保等が課題である。 ○第一志望合格に向けて粘り強く最後まで学習を支援する体制を強化しており、サポート方法やキャリアガイダンス体制のさらなる改善が必要である。
	学校運営等	○社会で求められる力の育成のため、教科横断的で探究的な学習を着実に実施できる体制を構築する必要がある。 ○情報共有や意思統一を円滑に図るため、ICT機器の活用やシステムの改善など一層の工夫が必要である。 ○働き方改革が叫ばれる中で教職員の働き甲斐を失わないよう注意しながら、休暇取得の促進や定時退校日の遵守、また業務内容の改善や部活動の在り方の検討など、職員のワークライフバランスの改善に向けた取り組みが必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		○目標達成のための確かな学力の獲得を目指し、適切な科目・単位数を各学年に配置します。2学年から進路希望によりコース選択して学習します。またその実践のため、教員一人ひとりがサポートスキルの向上を図ります。 ○各学年とも進路希望者を選抜して修学クラスを1学級設置します。1, 2学年の修学クラスでは、他の学級より2時間分週授業数が多い(週33時間)カリキュラムを編成して、進路希望の実現に向け支援します。 ○地域住民・関係機関との地域連携活動を取り入れ、様々な世代の方との交流を通してコミュニケーション能力を育みます。(防災INくわにし、竹の十三夜、桑西カフェ等) ○部活動や資格取得を奨励し、各自のキャリア形成を積極的に支援します。 ○命を大切にし、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進します。
学校運営等		○授業内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学校全体として学力向上や授業力向上に向けた新たな企画や改善策を積極的に提案し合い実行できる体制を構築します。 ○目的意識の共有化を図り、組織力を向上させるとともに、地域の多様な関係者と連携することなどにより、有為な社会人を育成するために最適な教育環境を創造します。 ○総勤務時間の縮減など、教職員が健康で意欲的に働くことができる職場環境づくりに取り組みます。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿	○ 日々の授業を誠実に受講でき、確かな学力を身につけたいと願い、自ら勉学に主体的・意欲的に取り組む意志のある生徒
【アドミッション・ポリシー】	○ 「知・徳・体」とともにバランスよい成長をめざし、積極的に部活動や特別活動に取り組む意欲のある生徒
	○ 広い視野を持ち、多様な資格にチャレンジするなど自身のキャリアアップに努力できる生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習の充実	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、継続的に授業改善を実践し、生徒たちの資質・能力を育成する。 (2)教職員が、授業に必要な ICT 活用のスキルを校内研修や教員間の情報共有を通じて啓発し、生徒の授業への興味・関心を高める。 (3)各教科と連携し、図書館を活用した学びを促す。 【活動指標】 - 全ての教科で、課題の発見・解決や習得・活用・探究の学習プロセスを意識した授業を実施。 - 定期的に教科会議を開催し、生徒の学習状況の把握、ICT 活用した実践事案など、情報共有に努める。 - 生徒学校満足度アンケート、教員向け授業実践アンケートの実施。 - 教科別図書館購入リクエストアンケートを実施。授業に連携した展示コーナーを充実。 - 主権者として社会の中で自立し、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につけるために主権者教育を充実する。 【成果指標】 - 主体的に授業に参加したと回答した生徒の割合 85%以上 (83.4%) - 授業等で ICT 活用に不安があると回答した教員の割合 40%以下 (69%) - 授業等での図書館利用 60時間 (昨年実績 64時間) - 授業及び総合的な探究の時間を活用した「18歳選挙権」関連講座の実施。	(1) (2)教員のスキルアップに向け、年2回の授業公開や ICT 利用研修会の実施などを行ったが、教員のアンケート結果から多くの教員は改善して実施している授業がなかなか生徒の能力向上につながっているという実感がない実態もある。 (3)探究学習方法の改善により目標より多く活用した。 【指標結果】 → 89.0% → 66.7% → 120時間	◎

地域から信頼される、安全・安心な教育環境の構築	(1) 授業や学校行事の公開、学校施設の地域開放、PTA や地域の方々と協働して行う挨拶運動や美化活動などをおして、保護者や地域との連携を一層深める。 (2) 現在および将来に直面する災害に対して、地域と連携して防災教育の充実と防災意識の向上を図る。 (3) 学校説明会・パンフレットの充実等により、桑名西高校の魅力を中学校教員や中学生や保護者に発信する。 (4) 教育公務員として法令等を常に遵守するとともに、高い倫理観と崇高な使命感を持って職務に専念し、不祥事根絶に向けて職員会議等で討議し、職場全体で取り組んでいく。 (5) HP 更新回数を増やし広報活動を進める。 【活動指標】 ・HP やきずなメール、学年通信等による積極的情報発信。マスメディアへの情報提供。 ・地域から参加要請があった各種行事への積極的参加の推進。 ・中学生に親しみやすく、わかり易い学校パンフレットの制作。 ・将来社会の一員として地域から信頼され期待される人間形成を目指すために、「人権・環境・平和」等についての学習を深める。 【成果指標】 ・HPの更新回数4回以上／月平均（4回） ・防災訓練や防災研修会を計3回実施。（2回） ・学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合 95%（95%） ・外部人材の講演 7回以上 （7回） ・桑名西高校がメディアに取り上げられた回数 5回以上（4回）	(1) (2)授業公開2回、文化祭や挨拶運動、防災教育でのPTAとの協働、今年は地域の方の参加がなかった。 (3)パンフは中学生には好評だが、今年度の12月進学希望調査では、昨年度より若干希望者が少なくなっている。 (4)不祥事は、物損交通事故1件、県教委にいじめ関係での報告案件は4件。 【指標結果】 → 平均3回 → 計 3回 → 96.0% → 10回 → 4回	
キャリア教育の充実	(1) 大学入学共通テストや一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学入試まで粘り強く勉学に励む生徒の増加を図る。 (2) 生徒の多種多様な進路希望が実現できる、きめ細かいサポート・支援を図る。 (3) 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育む。 (4) キャリア教育を推進するため、総合的な探究の時間を改善し、より生徒が興味・関心のある内容を探究できる体制を構築する。 【活動指標】 ・学期に1回、修学クラスをアピールする広報の発行 ・大学進学希望者の大学入学共通テスト・一般入試受験	(1) (2) (3)補講や年間を通しての担任やキャリアガイダンス部担当との面談、教科の個別指導出願資料の添削等のさまざまな進路指導やサポートを実施、共通テスト240人強の受験、現在私立、国公立大学受験に向け、60名程度が最後	◎

	を促進。 ・就職希望者への面談の充実を図る。 ・進路講話、進路ガイダンス（入試に向けて・学部学科選択・文理選択）、卒業生講話の実施。 ・校外模試（全統模試・進研模試・看護模試・公務員模試）、自己診断テスト（スタディーサポート）の活用。 ・1日看護体験、保育体験、作業療法士体験等の奨励。 ・改善された総合的な探究の時間をととして、地域課題等より身近な課題について解決する力の醸成し、自ら進んで進路選択が図られるよう、学年進捗で取り組みを進める。 【成果指標】 ・自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合 95%（94.6%） ・探究活動が進路選択に有効であったと回答した生徒の割合90%（84.4%）	まで挑戦中、それ以外は決定済、就職希望者の決定率100%、公務員試験合格率77.8% (4)今年1年次がリニューアルして探究活動実施中でまだその結果は出ていない。 【指標結果】 → 93.8% → 86.4%	
学校生活の充実	(1) 「挨拶・清掃・身だしなみ MM」を目標に掲げ、生徒自らが進んでより快適な学校生活が送れるよう支援する。生徒や教職員が積極的に挨拶を交わす関係を築くことで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、人間関係を育む。 (2) 美化意識の向上、校内美化・清掃活動に積極的に取り組む。また自転車運転に対するマナーを向上させ、交通事故等の未然防止に努める。 【活動指標】 ・いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全（特に自転車事故の防止）、ネットモラル等の講演会の実施、年間を通した登下校見守りの実施。 【成果指標】 ・自ら進んで挨拶をすることができると回答した生徒の割合 95%（89.9%） ・校内美化・清掃活動に努めることが出来たと回答した生徒の割合 95%（93.1%）	(1) 目標通り計画的に実施できた。前時代的な校則はないが、生徒会と連携し校則等の見直しは継続中。しかし、今年は生徒総会見送り。 (2) 通学中の自転車事故数件、また、自転車運転のマナーで苦情が多く、課題である。 【指標結果】 → 95.0% → 95.5%	◎

心と体の健康の充実	(1) 高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理能力をつける。 (2) 早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・スクールカウンセラーとの連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。 (3) 生徒の様々な課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーや発達障害支援員等と共に支援を行う。 【活動指標】 ・「保健だより」を年間12回以上発行 ・「いのちの教育」について生徒対象講演会を年1回実施。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として手洗い慣行とともに、年間を通じて校内消毒、毎朝検温確認を実施。 【成果指標】 ・自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合 90% (87.9%)	(1)(2)(3)ともに概ね活動指標通りの取組はできている。 不登校生徒とともに教育相談件数の増加がみられる。 学校に登校できない生徒へオンライン授業を始めた。現在数人受講中だが、全日制の特徴としてこのままでいいのか検討する必要がある。 【指標結果】 → 88.8%	
改善課題			
各行動計画のそれぞれに活動指標は、目標を下回っている指標であっても目標値に若干達していないという数値であり、概ね順調に推移していると感じています。 しかし、教員の授業改善、生徒の面談・見守り等を含め、生徒のサポートをしている中で、学校は特に不登校生徒の増加に頭を悩ませています。生徒の皆さんに少しでも楽しい学校生活を送ってもらえるよう、学校全体で体育祭・文化祭・芸術鑑賞など学校行事を盛り上げ、学業保障ではオンライン授業の実施、人間関係の悩み等はSCへ、家庭関係であればSSWと連携し、さらに現在は定期的な開催はできていないものの桑西カフェ等の居場所づくりにも取り組んできましたが、不登校生徒の増加は続いています。要因として、学業不振や友達関係の悩み、学校・家庭での居場所、SNSでの気疲れ等、それぞれに様々な要因がある中で、全日制の高校としてどのような対応が適切なかが問われているように感じます。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教科会を定例化し、授業改善・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。 (2)校内研修会の充実および外部研修等の成果を全職員で共有する。 【活動指標】 ・相互授業見学を1. 2学期に各1週間実施。 ・各部主催の教職員研修を各年1回実施。 【成果指標】 ・授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合 80% (66. 7%)	(1)(2)教科会は時間割の中に入れ定例化、研修も1, 2学期にそれぞれ数回開催できた。 【指標結果】 → 76.2%	
組織力の向上	(1)教職員間の対話を重視するとともに、特別支援教育推進委員会や学年会・教科会等で、生徒に関する情報共有を密にするとともに、学年・分掌の協力体制を強化していく。 (2)「運営委員会」において、組織運営及び本校の魅力化等について継続して検討していく。 【活動指標】 ・組織力の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案 【成果指標】 ・校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合85% (91. 1%)	(1)(2)概ねできているが、内容から会議がどうしても長くなる懸念がある。 【指標結果】 → 88.1%	
働きやすい職場づくり	(1)あらゆる機会を通じて労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じた必要となる休暇取得などを推進する。 (2)互いに職場の仲間を思いやり、教職員一人ひとりが、相手の意見や考えを尊重しながら、自由闊達に意見を言い合える風通しの良い職場環境づくりに努める。 【活動指標】 ・定時退校日(月2回)を実施し、設定した日の定時に退校できる 職員の割合90%以上を目指す。(87. 1%) ・部活動休養日を週1日以上設定し、計画通り実施できた部活動割合100%を目指していく。(100%) ・会議の所要時間を60分以内にする割合80%以上を目指す。(67. 3%) 【成果指標】 ・自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合60%以上を目指す。(51. 1%) ・休暇(病欠休暇を除く)を一人平均年15日以上取得。(15. 4日(病欠休暇を除く)) ・時間外在校等時間が月45時間超職員の年間延べ人数を0人(130人以上) ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数を0人(22人) ・一人当たりの月平均時間外在校等時間を30時間以下(29. 4時間)	(1)(2)ともに概ね実施できた。 この項目は活動指標にも目標値があるので、結果を下に 【活動指標】 → 93.4% → 100% → 55.7% 【指標結果】 → 69% 1月末現在 → 19.2日 → 103人 → 18人 → 26.1時間	◎

改善課題

昨年度と比較して、60分以内の会議の回数が目標数値より大きく下回ったが、時間外労働時間数、休暇取得日数ともに改善している。

職員の中には、働き方改善の指標が時間に関わるものばかりであり、それだけでいいのか、しっかり教員としてやりがい確保された改善が必要ではとの意見もある。

学校としては、引き続き働き方改善に向けて継続して教員の意識改革を含めて取り組んでいく必要がある。

また、月45時間以上、年間時間外勤務360時間以上の人数を0にする目標値には現状とあまりにもかけ離れており、教委とともに今後の目標設定時に見直しを図る必要があるのではないかと考える。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	学校は丁寧に指導している。不登校生徒への指導、いじめ対応、自転車乗車マナーなど今年度に見えてきた課題に対して、次年度注力してほしい。 成果指標である月45時間以上、年間360時間以上の人数は、学校の現状との著しい差異があるので、現実的な数値に改善すべき。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	不登校生徒への対応について、個々の事情をより丁寧に聞き取りながら、対象生徒にとって最善の方法となるようケース会議の議題に加える。 いじめ問題の早期発見について、年3回のアンケートの他にいつでも記入できるフォームの周知を定期的に行うことを検討する。
学校運営についての改善策	組織力の向上には、会議での意見交換も適宜必要であるが、チャットでの意見交換などで置き換えるものがあれば、会議自体を減少させることができるので、その方向も検討する。 働き方改善に関して、数値を現実的なものに直す。